

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	田中 未央里 【ライフサイエンス専攻 平成28年度生】	<p>近年、様々な慢性疾患の発症には、生体内における炎症が深く関わっており、その炎症反応にはマクロファージより分泌される様々なサイトカインが関与していることが明らかとなってきた。学位申請者は没食子酸および没食子酸を多く含むターミナリアベリリカ抽出物に着目し、学位論文研究において、培養細胞と動物モデルを用い、これらの因子がマクロファージに対して抗炎症作用を発揮する分子メカニズムを検討した。この結果、ターミナリアベリリカ抽出物ならびに没食子酸がLPSにより活性化したマクロファージにおいて、炎症メディエーターの発現を抑制し、そのメカニズムとしてNF-κBの核移行やリン酸化、MAPKのリン酸化を抑制すること、さらに抗酸化酵素の発現を亢進すること、またターミナリアベリリカ抽出物はマウスの急性腎炎モデルにおいて、病態を改善することを明らかとした。さらに申請者は、生体内の慢性炎症再現モデルである脂肪細胞とマクロファージの共培養系を用い、没食子酸が本モデルにおいて炎症メディエーターの発現を抑制すること、また肥満モデルマウスにおいては、脂肪組織における炎症性変化を抑制し、インスリン抵抗性を改善することを明らかとした。本研究の内容の一部はすでに国際誌に発表済みである (<i>Antioxidants</i>. 5(2): 20, 2016., <i>Oxidative Medicine and Cellular Longevity</i>.2018. Article ID 9364364)。</p> <p>本論文は、炎症性疾患の制御のための食について貴重な情報を提供するものであり、学位論文として十分な内容と水準を備えていると判断した。第一回審査では論文内容の審議がなされ、口頭試問を行なうことを可と判断した。第二回審査会では申請者の出席のもと口頭試問がなされ、申請者は質疑に対して適切に回答し、後日加筆修正を行なった訂正論文を提出した。以上の審査の過程をふまえて行なわれた公開発表（1月23日）においても、審査員からの質疑に対して的確な対応がなされ、最終試験も合格と判断した。よって、審査委員会は本論文を本学人間文化創成科学研究科の、博士(学術)、Ph. D. in Nutrition の学位を授与するに相当する論文とである判断した。</p>
論文題目	没食子酸ならびにターミナリアベリリカ抽出物による炎症及び酸化ストレス抑制メカニズムの解明	
審査委員	(主査) 教授 飯田 薫子	
	教授 藤原 葉子	
	教授 森光 康次郎	
	教授 村田 容常	
	講師 市 育代	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている <input checked="" type="radio"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	